# 概要

中代~中世のアクアートでよく見られた建築様式。この頃のアクアートでは神を祀ったり、神仏信仰のための神殿が盛んに作られた。その神殿の建築様式について軽くまとめた。

# 白と水色を基調にした内部色彩

アクアリア教は水をとっても大事にする宗教なので水の色である白と水色が神聖な色とされている。なので神殿の中はほとんどが白と水色で塗られている。外観も同様であるが、大部分は白である。

# 噴水と川

神殿の最奥には必ず噴水がある。アクアリア教は水に神様が宿ると言われているのでこの噴水に神様がいるとされる。この噴水に礼をすることで神の加護を得られると言われている。

さらに噴水から外に続いている川もある。これは神殿参りの際に水の音を聞いて神聖な気持ちになるのと、邪気を外に流すという意味合いがある。この川の水で手を清めてからでないと先に行ってはいけないというルールがある。川は噴水から流れているため、水流の起点となる噴水は必ず一番高いところに設置されている。つまり神殿は奥に行くにつれ登っていくということになる。

噴水の周りにはバリケードがあり触ることができない。噴水や噴水の中の水に触るということは神に汚い手で触るという意味合いになり縁起が悪いため禁止されている。

噴水は川や海の水を使っているため基本的に川や海の近くにしかない。ひとつだけ例外もあり水道水から供給している神殿もある。アクアート最後の神殿である。噴水のサイズは国王の力や信仰の強さを表しており、直径1m×高さ50cm程度のものから、直径5m×高さ4m程のサイズまである。